

様式1

令和6年度 学校評価

学校教育目標		自立貢献 ～自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することのできる生徒の育成～											
a ミッション	小中連携教育を基盤とした確かな学力定着の取組の充実					a ビジョン	・向上心を持ち、自ら学ぶ意欲的な生徒を育成する。 ・規範意識を身に付け、自他を大切にする生徒を育成する。 ・自己を認識し、将来の夢や目標を立て、その達成に向けて計画ができる生徒を育成する。						
評価計画					自己評価					学校関係者評価		改善計画	
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ ロ ハ	l コメント	m 改善案
確かな学力の育成	向上心を持ち、自ら学ぶ意欲的な生徒を育成する。	豊かな関わり合いのある授業を創造し、生徒の思考力・表現力を育成する。	・授業研究を行い、学び合いを充実させる。	1人1回、学び合いのある授業提案を行い、その後の研修で検証を行う。	100%	100%	100%	100%	A	【成果】 夏期休業中に本年度の研究について共有する研修の場を設定した。研修を踏まえて、2学期に2回の校内研究授業を行い、5名の教員が授業提案を行った。公開研究会では、豊かな関わり合いのある授業についていろいろな立場の先生方に意見をいただき建設的な協議を行うことができた。 【課題】 次年度に向けて、シラバスの検討も踏まえて美術中の授業スタイルを確立していく。	○	・達成値が前回よりも上げっており良い、勉強ができることは良いことだが、社会へ出て対応していける人間性を身につけることも大切だと思います。 ・高い達成度を示しており、評価できる。	各教科の特性を踏まえて、すべての教科で共通して取り組める美術中の「学び合い」のスタイルを確立できるように協議を続けていく。
			・各教科・各領域において、学習目標達成を見取る手立てとして、学び合いの場を設定し、思考力・表現力を育成する。	学校評価生徒アンケート「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。」に肯定的に回答する生徒の割合	85%	76%	81%	96%	B	【成果】 ピア・サポートトレーニングや学び合い活動を充実する中で生徒の思考力・表現力を育成することができた。また、生徒の肯定的な回答も約8割を達成することができた。 【課題】 人間関係が固定化される場合が多くあり、離れても分けて隔てなく交流が出来るように意図的なグルーピングなどを行う必要がある。		授業での活動を考えや意見の交流にとどまる「話し合い」で終わるのではなく、交流を通して自分の考えを上げたり、考えが深まるような問いや単元開発が行えるように研修等を行っていく。	
豊かな心と健やかな体の育成	規範意識を身に付け、自他を大切にできる生徒を育成する。 自己を認識し、自分の将来の夢や目標を持つことができる生徒を育成する。	リーダーの育成と、お互いを認め合える集団づくりを進める。	・生徒リーダーを中心として学校行事や地域行事への積極的な参加を行う中で、生徒の自己肯定感と自己有用感を高める。	アセスアンケートの向社会的スキルの項目に肯定的に回答する生徒の割合	85%	54%	75%	88%	B	【成果】 前回より達成率は少し上がっており、友達との関わりの中で自己肯定感が高まった生徒が増えた。 【課題】 目標値にはまだまだ達しておらず、クラスや学年の中で取組をさらに行う必要がある。	○	・達成値は前回と変わりなく、先生だけの声かけでは、学習時間や規則正しい生活等を意識することは難しいと感じます。やはり、家庭での声かけも必要だと感じます。 ・家庭での学習時間は目標を達成できていませんが、全国の学力調査は飛躍的に伸びているなど、学校での先生方の努力が感じられます。	・学校行事などに、生徒同士が関われるような活動を意図的にしていく。 ・ピア・サポートの取組を生徒主体で行わせ、生徒の自己肯定感や自己有用感を高める。
		生徒に三点固定(起きる時間、家庭学習時間、寝る時間)をさせ、基本的な生活習慣を確立する。	・軌跡によって生徒の起床時間、家庭学習時間、就寝時間を確認し、担任や学年の教員を中心にサポートを行う。また、課題のある生徒に対しては定期的に生活習慣を振り返らせ、規則正しい生活を送ることへの意識を高める。	学校評価アンケート「起きる時刻と寝る時刻を決めて、毎日それを守って規則正しい生活をしている」に肯定的に回答する生徒の割合 学校評価アンケート「学年で定められた家庭学習時間を達成することができている」に肯定的に回答する生徒の割合	75%	66%	68%	91%	B	【成果】 前回より達成率が上がっており、規則正しい生活を意識する生徒が増えた。 【課題】 教員で声かけを行うことができた。しかし、生徒が主体となって生活を改善するような方法を考えさせる必要がある。	○	・生徒の状況を軌跡や計画表をもとに把握し、課題の見える生徒について声かけを行う。改善が見られない生徒については保護者連携を行うなど、学校と家庭が連携して取組を行っていく。 ・生徒委員会を活用して生活や学習の取組を学校全体で行うなど、生徒が主体となって考える場をつくることで意識を高める。	
学校における働き方改革	教職員が、本校に勤務して良かったと思える環境を実現する。	教職員一人一人の業務改善の意識を高め、担当業務の適正化に取り組む。	・毎月の学校経営会議で行事の精選や、スクラップ&ビルド、業務分担の見直しや、進捗調整等を行う。	働き方改革アンケート「生徒と向き合う時間が確保されている」に肯定的に回答する教職員の割合(令和5年12月本校73%)	75%	82%	77%	103%	A	【成果】 肯定的評価が77%となり、目標値以上となり、生徒と向き合う時間の確保に繋がった。 【課題】 前回調査(7月)と比較すると数値が下がっており、業務分担の見直しが必要である。	○	・先生の時間外勤務が減ることはとても良いことだと思います。前回と比べて大幅に達成値が上がっており、改善に努めた結果と思います。 ・働き方改革では、前期は目標達成できませんでした。が、後期は大幅に改善されていることに評価いたします。	・生徒と向き合う時間の確保に係る改善案としては、経営会議にて行事、業務の精選を行い、生徒一人一人に寄り添える時間の確保を図っていく。 ・時間外勤務時間の縮小については、課題のある教職員との話し合いだけでなく、業務の割り振りや抱え込みをなくす等、組織的な対応を引き続き図っていく。
			・毎月の衛生懇話会で、全教職員の時間外勤務時間を分析し、課題のある教職員と改善策を話し合う。	「時間外勤務時間月45時間以下の教職員の割合」(令和5年6月市平均31%)	50%	41%	66%	132%	A	【成果】 50%の目標を大幅に超えた。 【課題】 時間外勤務は特定の職員に見られ、進捗状況等を把握し、更なる改善策を図っていく。			

尾道市立美術中学校

【自己評価 評価】

A : 100 ≤ (目標達成)
C : 60 ≤ (もう少し) < 80B : 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
D : (できていない) < 60

【外部評価】 イ : 自己評価は適正である。ロ : 自己評価は適正でない。 ハ : わからない。